

視察報告書

| | | | | | | |
|--------|----------------------------------|----|----|---------|----|-------|
| 委員会名 | 総務文教常任委員会 | | | | | |
| 視察日時 | 平成27年11月11日(水) 13時00分～15時00分 | | | | | |
| 視察先 | 市町村名 | 燕市 | 人口 | 81,802人 | 面積 | 111k㎡ |
| 視察項目 | つばめ若者会議について、新庁舎整備について | | | | | |
| 視察参加議員 | 堀田勉、谷口一成、小島忠義、三嶋栄幸、柳明夫、岡村一伸、高橋徹郎 | | | | | |
| 視察随員 | 岩田英昭 | | | | | |

《視察概要》

1. つばめ若者会議について

① つばめ若者会議からの成果

- ・ つばめ若者会議から「つばめの幸福論2013」という冊子が発行される。
- ・ 若者会議全体の中からいくつもチーム活動が生まれ、それぞれのプロジェクトが進行している。
- ・ ここで出会った若者同士が横のつながりを持つようになり、違った活動が出てきた。活力が出てきたと感じている。
- ・ 目的の一つに、若者の人材育成という観点もある。
- ・ 当初2年間は studio-L(山崎氏)がファシリテーターとなり、会議を進行させていたが、3年目からは若者会議が主体となり、3年目の今年度からは自主運営できるようになった。

② 今後の課題

20代が1年目、2年目は多くいたが、3年目には8人になった。来年度は20代を増やし、30代との繋がりを持たせたい。可能であれば、高校生から参加させたいとのことであった。

- ・ 若者会議は、市に対する要望の場ではなく、また、市の抱えている問題を若者の目から解決を目指すような場でもない。このため、この若者会議の位置付け、今後の方向性についての課題が生じており、現在もこの議論が続いているとのことであった。

なお、今年度中に若者会議の位置付けを明確にしたいとのことであった。

2. 新庁舎整備について

新潟県燕市は平成18年に1市2町が合併し誕生した市である。

人口はおよそ8万人。面積は111k㎡燕市の市役所は平成25年に開庁している。

新庁舎の建設の基本方針

- ・ 「無駄を省いたスリムな庁舎」
- ・ 「あらゆる人にやさしい、安全安心な庁舎」
- ・ 「住民自治の拠点となる、親しまれる庁舎」
- ・ 「環境に優しく、周辺環境と調和した庁舎」

これらを建設の基本方針として掲げられ、耐震に加え免震構造を採用して完成している。

新庁舎の概要

総事業費約45億7,000万円 うち工事費は39億5,000万円
延べ床面積:11,443.66㎡(旧三庁舎を合わせた面積とほぼ同じ規模)
職員:一般職員347名 臨時・嘱託職員等72名 総数419名
構造等:地上4階建 鉄筋コンクリート 高さ24メートル(免震構造)

・ 庁舎建設の経過

平成18年1市2町が対等合併し、新「燕市」が誕生しているが、新庁舎は合併前の平成16年より任意合併協議会の中で新庁舎建設の方向づけを行っている。

・ PFIの採用について

理由:メリットデメリットを考え、PFIを採用すると完成までに時間がかかることなどからPFIの採用は見送った。

・ 旧役所の利用について

旧燕市役所・・・水道局、保健センターとして利活用、古い建物は解体。

旧吉田町・・・社会福祉協議会として利活用

旧分水町・・・解体、跡地に消防署を建てる計画

・ 建設費について

免震構造採用のために地下1Fが免震層になっている。また、非常用電源設備と給排水設備、発電機の72時間分の燃料を置く場所として、4Fの上(実質5F)を使っている。

1㎡約345,000円(一坪114万円)になり、割高な印象であるが、この二つのスペースの面積が延べ床面積には含まれていない。この機能を延べ床面積に含む計算となれば1㎡あたりの建設費はもう少し低くなるとのこと。

・ 立地について

新庁舎が農振除外により、水田地帯にてられているため、周りは一面水田である。

・来庁者、職員のための駐車場が広い。

・車以外の交通手段でくることが困難。(デマンドバスを走らせている)

・近くに飲食店がない。

・広い敷地を利用してイベントも行われている。

などの特徴がある。

《本市にとって活用すべき事項・課題》

1. つばめ若者会議

①糸島市の現状

糸島市においても各種審議会や委員会、いろいろな校区民会議のメンバーに20代、30代は少ないように思われる。まして10代の参加はなおさらである。

これからの糸島を考える上で10代、20代、30代が意見を言える、自分と違う考えを持つ人との交

わりの場を提供することは大切であると考え。

本市にとってつばめ若者会議の仕組みを活用する場合、糸島市の若者がまちづくりに関して関心を持っているのか、また、関心を持っている若者が一定数いたとしても、その若者たちが集まって意見を出し合うような場を求めているのかがポイントとなる。

まず、糸島市の若者がまちづくりに関して関心を持っているのかという点では、九州大学には iTOP というサークルがあり、「学生×まちづくり」をテーマに、地域住民や学生を巻き込んだ地域活性化活動に取り組んでいる。また、このサークルが主催する「地域活性化プランコンテスト」は毎年糸島市役所でプランの発表が行われている。さらに、近隣の大学には若者と政治を結ぶ「ドットジェイピー」という団体に加盟している学生も多く、社会貢献の意識が高い学生が存在する。

他にも、商工会青年部や青年会議所などの団体の活動は活発で、自分たちのまちに積極的に関わっている若者は多く、糸島市内で行われている各種のイベントでは30代、40代が主催者となり、行政の関わりなしにイベントを成功させている。

そのような状況を考えれば糸島市でもまちづくりに関して機会があれば参加したいと考えている若者は多くいるであろうと想像される。

②運営おける懸念

・意見がどのように反映されるのか。

若者会議で出た意見を市政にどう反映させるかの仕組みがないと若者にとってやりがいにならないのではと考える。この仕組みがないと、現在の「つばめ若者会議」のように最初は参加人数が多いがその後減少をたどり、若者会議を今後どうしていくのかの議論に時間を費やされてしまうようなことになる心配がある。

・会議を行うための人材育成

また、そのような場を作った場合、その会議を進行するファシリテーターの存在が欠かせない。そのファシリテーターの育成も大きな課題である。

2. 新庁舎整備事業

①本市の庁舎を建て替える場合の参考にするべき点

・ PFI の採用

PFI を採用すると完成までに時間がかかる可能性があるため、完成までの期限が少ない時には PFI を導入しないという考えも状況によっては必要になってくるのではないか。

・ 環境共生型庁舎

環境共生型庁舎として環境対策機能が優れている。エコボイド(ガラス外装の吹き抜け空間)と自然換気窓「スイング窓」の利用。

太陽光で暖められた空気はエコボイド内で上昇気流を発生させ、各フロアーにて空気を誘引する力を発生させることで自然吸気口から外部空気が室内に導入される。これだけでは夏の暑い時、冬の寒い時の対策とまではならないが、季節の変わり目でのエアコンの利用が少し抑制され

るようであった。

また、ガラス外装であることから外光を多く取り入れ照明の電気代の抑制につながるようである。

- ・ 免震構造の採用

免震構造にするか、もしくは耐震構造のみとするかにより、費用の差も大きく、床面積を考慮しながら適切な方法を考えるべきだと考える。

- ・ 太陽光発電パネル

太陽光パネルの設置は少なめであった。費用対効果と、雪の多く降る新潟県であるため冬場の発電量を考えてのことと考える。糸島で考える場合は糸島の環境等を考え検討すべきである。

- ・ LED 照明の全面的導入

これからの庁舎を考えるならば高効率で合理的なエネルギー運用の面からもLED照明は外せないのではないかと考える。

- ・ 議場

議場は傍聴席からすべての議員と執行部の姿が見える位置関係にあり、しかも壁はガラスで仕切られているため見通しが良かった。開かれた議会の印象を与えるものであった。

- ・ 執務室

1階から3階が執務室になっているが、各階は壁のない大きなワンフロアとなっていた。開放的で、住民の窓口利用の多様化や変更による将来的なデザイン変更など容易にできる印象を受けた。

糸島市の新庁舎建設については、現在検討中の段階であるが、新庁舎の整備にあたっては、合理的なエネルギー運用を図る設備、環境対策機能、地震に対する備え、などを考慮すべきである。



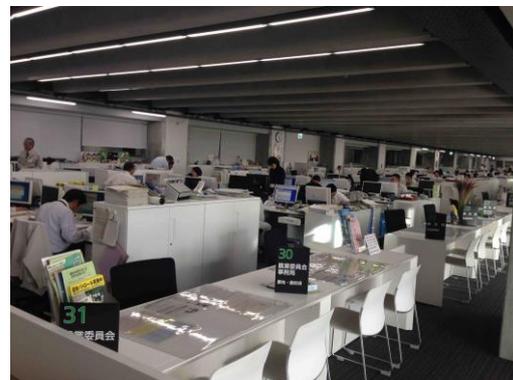
水田の中に突然現れる新庁舎
周りには水田しかない

エコボイドによる内部の吹き抜け空間



屋上のスイング窓
エコボイドで上昇してきた空気はこのスイング窓により外
に逃がされる
スイング窓は電力を使っておらず空気の膨張で自然と
押し上げられていた

柱のない開放的な空間



開放的な議場、議員席から傍聴席を写した写真

